

はじめの一歩!!

ボランティア入門講座のお知らせ

中京区ボランティアセンターでは、各種入門講座を開催しております。今年度は下記の4つの入門講座を実施します。関心のある方は、ぜひお問い合わせください。

また、今後実施予定の講座につきましては、町内回覧板や掲示板、区民しんぶん等でお知らせいたします。

学ぼう！ 手話教室 (昼の部・夜の部)

聴覚に障がいのある方がどのような不便を抱えているか(生活や思い)、音(言葉)を用いずに気持ちを伝える方法(手話の基礎)など、手話を含めたコミュニケーション手段について、聴覚障がい者の方々との交流を通して学ぶ教室です。

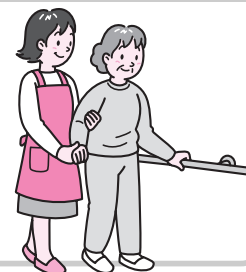


昼の開催 11月14日(土)・21日(土)
(13:30~15:30) *2回連続教室

夜の開催 11月11日(水)・18日(水)・25日(水)
(19:00~21:00) *3回連続教室

中京区介護ボランティア養成講座 ~介護技術を楽しく学びましょう~

介護を必要とする方の状況を実際に体験し、その生活や心を考えるとともに具体的な介護技術を学びます。介護に関わるボランティアグループ等での体験もできるので、講座終了後すぐにボランティア活動を始めることもできます。



開催日: 11月10日・17日・24日・12月15日 *いずれも火曜日
時間: 13:30~16:00

視覚障がい者への支援を学ぶ 開催時期: 2月頃(予定)

視覚に障がいのある方を正しく理解し、点字や手引きなどの体験を通して、視覚に障がいのある方への支援の方法を学ぶ講座です。



要約筆記入門講座 開催時期: 3月頃(予定)

難聴者や中途失聴者の方に文字を通じて情報を提供する要約筆記。聴覚障がいの方を正しく理解し、要約筆記の体験を通して、聴覚に障害のある方への支援の方法を学ぶ講座です。



平成22年度事業にかかわる賛助会員の募集にご協力を

中京区社会福祉協議会では、賛助会員制度を実施して、区民の皆様任意で賛助会費をお寄せいただいております。中京区の福祉活動を支える賛助会費の募集に、ご理解・ご協力をお願いいたします。

賛助会費 ●個人(世帯)年1口 500円 *募集活動は1月頃より随時行います。
●法人(企業)年1口 1,000円 ■問い合わせ先 中京区社会福祉協議会 (☎822-1011)

べんがら ごうし nakagyo

『認知症』正しく理解
していますか?

2009年11月発行

33号



京都御池中学校

認知症を学び地域で支える

認知症サポーター養成講座の取組み

—中学生も地域の見守りの一員です—

編集・発行
社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会
〒604-8316 京都市中京区大宮通御池下る三坊大宮町121-2
TEL.075-822-1011 FAX.075-822-1829 <http://www.mediawars.ne.jp/fukusi06>

『認知症』と聞くと「何もわからなくなる」「何もできなくなる」というイメージを持っておられる方は多いのではないのでしょうか。認知症は脳の病気です。病気を周りの人が正しく理解することで、認知症をかかえる人は住みなれた地域で安心して暮らすことが可能です。

7月1日、京都御池中学校では「認知症の方、障がいを持っている方を問わず思いやり、尊重する気持ちを人権教育の一環として培う」ことを目的に、認知症の方の「気持ち」や「思い」を理解し、認知症の方に出会った時「私なら何が出来るか」を考える授業を行いました。



学年全員で認知症について理解を深めました。



各クラスに分かれての授業。寸劇では、「認知症の方に出会ったときの対応」を考えました。

学校、地域で認知症サポーター養成講座を行うことができます。認知症の方とその家族を見守り、誰もが暮らしやすい地域をつくるため、認知症を正しく理解しませんか?

お問い合わせ

京都市中京区社会福祉協議会 TEL. 075-822-1011
京都市御池地域包括支援センター TEL. 075-257-5810
京都市本能地域包括支援センター TEL. 075-254-0021
京都市丸太町地域包括支援センター TEL. 075-801-1384
京都市西ノ京地域包括支援センター TEL. 075-841-0883

本紙は共同募金の配分金によって
つくられています。

エントリー

参加者は、一番初めに参加申込みをします。

～参加者の動機～

この児童館の学童に来ていました。あの頃を思い出して先生方のお手伝いがしたい

将来の参考にしたい

施設の中に入る機会は少なくこれはいいい機会だと思った

介護の仕事に興味があります

はじめの一歩から、出会いふれあい体験 将来を見つめる ユースアクション2009

～夏休み、数日間の福祉ボランティア体験～

中京区内の中高校生等が福祉施設に体験に行く「ユースアクション2009」は毎年夏の恒例事業です。ユースアクションとは、福祉施設でのボランティア体験により、異なる年齢層の方々との交流や様々なハンディキャップを抱えるの方々とのふれあいを通して、視野を広げたり社会参加につながるようなきっかけ作り等を主な目的として実施しています。

今年の参加者は36名、体験先は16施設でした。「毎年参加しています！」という高校生や、「初めての体験でもって不安です。ちゃんとできるかなあ。」と緊張しながらも体験を楽しみにしている中学生。

ドキドキ・ワクワクしながら頑張った福祉ボランティア体験は、「もっと体験したい!」「違う施設にも行ってみたい!」との声を聞くことができ、参加者にとって意義のある経験になったようです。

また、この体験を『将来の職業体験』ととらえて参加している中高生も多く、真剣に子どもたちやお年寄りの方、障がいのある方と向きあったり、働く職員さんの姿を見ながら「自分の将来」に思いを馳せてみたりと、“福祉の仕事”について深く考えてもらえる機会にもなったようです。

事前学習会で学ぶ

事前学習会では、各種別（高齢・障がい・児童）の職員さんを講師に招き、一日の流れや注意すること等を教えていただきました。また、「私の達成目標」として、この体験中に「必ずこれだけはやりきります」という目標を設定しました。

自分でできること、やれることは進んでやる。

自分を出す。そして自分を出してもらおう。

笑顔で接する。

将来のことを目一杯勉強する。



体験

それぞれ自分の体験先に出向いて、いざ体験！
1日目は不安や戸惑いを感じながらも、職員の皆さんに支えられて過ごします。2日目以降は参加者の皆さんも少しずつ慣れ、自分にできることを率先して行う様子も見られます。



目標達成できるかな？

事後交流会



施設での体験を終えた参加者がもう一度集まり、参加者同士の交流や自分の福祉体験を振り返ります。自分とは異なる分野での体験をしてきた参加者の話を聞くことも出来ます。

今年度の事後交流会では、体験前の気持ちと体験後の気持ちを対比し、どのような考えの変化があったかを意見交換しました。

～参加者からの感想～

作業所は思っていたところとは違い、明るくて元気な場所だった。体験しにいくと「手伝う」のではなく教えてもらうことの方がたくさんあった。3日間だけだったけど、その中で相手の話すことが分かるようになってきていたし、もう少し長い期間だったらもっと深く関わりたいと思う。

今年は2つの施設に行って去年より2倍楽しく過ごせました。その分学んだことや感じたこともたくさんあり、すごくいい経験になりました。まず学んだのは、保育士という仕事は、ただ子どもと遊んでいるわけではなく掃除をしたり全体を見渡して危険でないかを確認したり気の抜けない仕事だと感じました（プールだけでも注意しなければならぬことがどれだけ多かったか...）。それから、ダメなことはダメという。なかなか言えず大変でした。先生方はちゃんと怒らなければならないときは怒って普段は優しい。来年は今年学んだことを生かせるようにしたいです！

初めはとても不安でいっぱいだったけれど、皆さん温かく迎えてくれたので嬉しかったです。80歳や70歳の方がとても元気いっぱいですごくにぎやかでびっくりしました。トランプをした時も楽しそうで、とても嬉しかったです。

